

(概要版)

荒川区民総幸福度（GAH）に関する 研究プロジェクト第二次中間報告書

平成 24 年 8 月

公益財団法人荒川区自治総合研究所

目 次

I	荒川区民総幸福度（GAH）の取組み	1
1	荒川区民総幸福度（GAH）のコンセプト ～指標化と運動～	1
2	研究体制	1
3	第二次中間報告書の位置づけ	2
4	荒川区民総幸福度（GAH）指標の作成方針	2
	（1）荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系	2
	（2）荒川区民総幸福度（GAH）指標のイメージ	3
II	荒川区民総幸福度（GAH）指標案	4
1	健康・福祉指標案	4
2	子育て・教育指標案	5
3	産業指標案	6
4	環境指標案	7
5	文化指標案	8
6	安全・安心指標案	9
III	海外自治体等における幸福度指標事例	10
IV	既存の荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民調査の分析結果及び今後の実施方針	11
1	既存の荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民調査の分析結果と課題	11
2	今後の荒川区民総幸福度（GAH）の調査方法	11
V	荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用方法案	12
1	荒川区民総幸福度（GAH）指標の課題把握・共有、意思決定支援ツールとしての活用	12
2	荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用プロセスと分析方法案	13
3	荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用イメージ	18
VI	荒川区民総幸福度（GAH）の向上を目指した運動	22
VII	今後の検討課題及び検討の進め方	24
1	指標に関する課題と検討の進め方	24
	（1）荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の検討及び実施	24
	（2）荒川区民総幸福度（GAH）指標の検証	24
	（3）指標の総合化の検討	24
2	指標の政策・施策・事務事業及び運動への活用	25
	（1）政策・施策・事務事業への活用方法の具体的な検討	25
	（2）荒川区民総幸福度（GAH）の運動の実施	25
	まとめ	25

I 荒川区民総幸福度（GAH）の取組み

1 荒川区民総幸福度（GAH）のコンセプト ～指標化と運動～

荒川区は、平成 19 年 3 月に定めた荒川区基本構想の中で、区が目指すべき将来像を「幸福実感都市あらかわ」と定めた。そして、生涯健康都市・子育て教育都市・産業革新都市・環境先進都市・文化創造都市・安全・安心都市の 6 つに分類された都市像、そしてそれらを推進する「計画推進のために」を合わせた 7 つの柱ごとに、様々な施策やプロジェクトを打ち出し、区民の幸福実感、すなわち荒川区民総幸福度（Gross Arakawa Happiness : GAH）のさらなる向上を図っている。

荒川区民総幸福度（GAH）の取組みには、「指標化」と「運動」の 2 つの側面がある。

第 1 の「指標化」は、区民の幸福度を測定する指標を作成し、そこから区民の幸福実感上の課題や地域において起きている課題を把握することによって行政行動のターゲットを明確化することにより、幸福度向上のための最適な政策・施策・事務事業を実施していくものである。なお、ここで言う区民とは、荒川区民総幸福度（GAH）のコンセプト上、昼間区民、外国籍の住民なども含む。

また第 2 の「運動」の側面は、区に関係するすべての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考えることを通じて、共に荒川区をより良くしていく運動につなげていこうというものである。「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて、行政だけでは力の及ばない領域があるのは事実であり、そうした領域については、行政・区民を合わせた地域ぐるみでの運動を起こしていくことにより、幸福度を向上させることができると考えられる。

2 研究体制

荒川区民総幸福度（GAH）の調査研究に当たっては、多様な分野の有識者が客員研究員として参画する「荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究会」を設置し、専門的な視点から議論を行っている。また、行政の最前線に立って区民の生活に最も近いところでそのニーズを把握している区の若手職員を中心とするワーキング・グループを設置し、現場職員の視点から実質的な討議を行うことによって、荒川区民総幸福度（GAH）指標の骨子を作成する作業を進めている。さらに、ワーキング・グループが作成した指標が、実際の政策・施策・事務事業の改善や提案につながっていくように、既存の政策・施策・事務事業がいかに荒川区民総幸福度（GAH）指標と関連しているかを検討するプロジェクト・チームを結成し、検討を進めている。

以上のように、研究会、ワーキング・グループ、プロジェクト・チームという多角的・実践的な視点から、荒川区民総幸福度（GAH）についての調査研究を行っている。

3 第二次中間報告書の位置づけ

平成 23 年 8 月に公表した『荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究プロジェクト中間報告書』では、「生涯健康都市」の項目に含まれる「健康」の幸福度指標と、「子育て教育都市」の項目に含まれる「子育て・保育」の幸福度指標の案を示した。

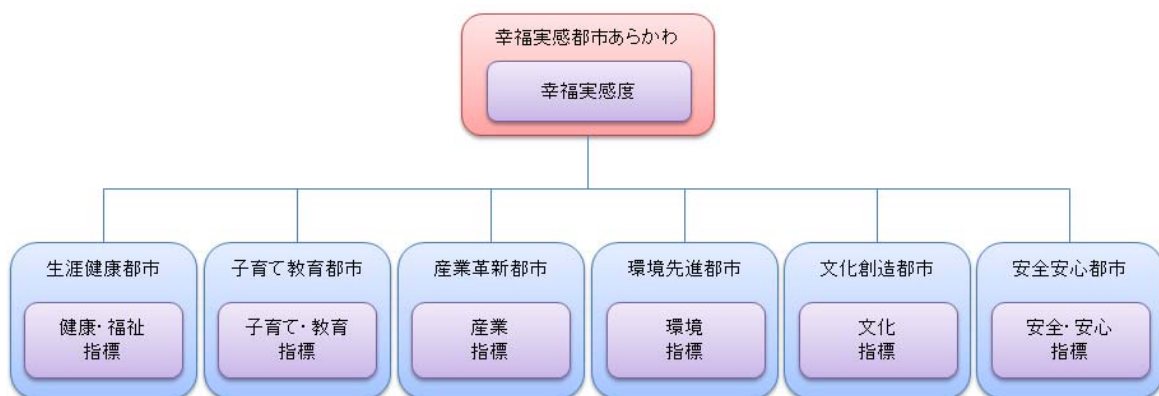
今回の第二次中間報告書では、荒川区基本構想に定める 6 つの都市像すべてについての指標案及び質問文案を、海外自治体などにおける幸福度指標の事例も踏まえつつ示した。既に中間報告書で示した「健康」「子育て・保育」の 2 指標案についても、さらに議論を深めた上で修正を加えている。また、荒川区民総幸福度（GAH）指標を用いた今後の調査分析手法についての新たな展望を示し、行政の政策・施策・事務事業への連動や幸福度向上を目指した様々な運動への活用方法の案を示すことにより、荒川区民総幸福度（GAH）の指標化から活用までの全体像を示した。

今後は、区民への実際のアンケート調査や様々な調査研究を通じ、第二次中間報告書で提示した荒川区民総幸福度（GAH）指標案と行政の政策・施策との関連性をさらに検証していく。

4 荒川区民総幸福度（GAH）指標の作成方針

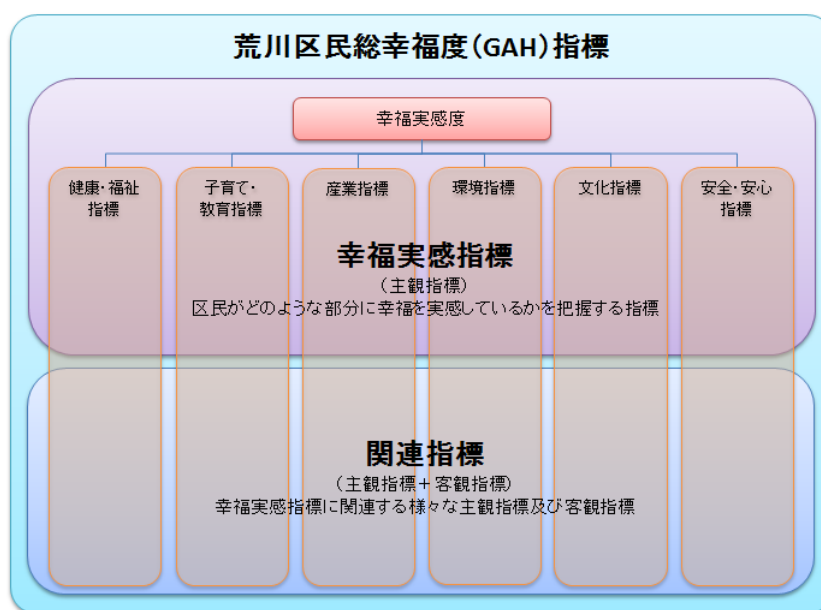
（１）荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

指標化に当たっては、「荒川区基本構想」に定める 6 つの都市像ごとに検討を行った。都市像ごとに指標案の名称を付けており、それぞれ、「生涯健康都市」は「健康・福祉指標」、「子育て教育都市」は「子育て・教育指標」、「産業革新都市」は「産業指標」、「環境先進都市」は「環境指標」、「文化創造都市」は「文化指標」、「安全安心都市」は「安全・安心指標」となっている。なお、各都市像の実現に向けて区の間接部門が行う後方支援的な分野である「計画推進のために」は、区民の幸福実感を直接測定できる分野ではないことから、後述する関連指標に含むものとする。



（２）荒川区民総幸福度（GAH）指標のイメージ

下図は、荒川区民総幸福度（GAH）指標の全体イメージを示したものである。



荒川区民総幸福度（GAH）指標は「幸福実感指標」と「関連指標」とに分かれる。それぞれの概要は次のとおりである。

（ⅰ）幸福実感指標

幸福実感指標は、区民へのアンケート調査等により、区民の主観的な幸福実感を把握する指標である。幸福実感指標の多くは、既存の統計データなどに基づく指標ではなく、荒川区民総幸福度（GAH）のために新たに作成した指標である。

幸福実感指標は、①区民が幸福を感じているかを総合的に尋ねる「幸福実感度」（「あなたは幸せだと思いますか？」）と、②荒川区基本構想に定められた6つの都市像ごとに設定された幸福実感指標で構成される。これらは区民の主観的な幸福度を大きく把握する役割を担い、主にどのような部分に不幸の要因があるかを把握するために活用される。

例えば、健康・福祉指標の「健康実感度」（「あなたは、健康であると感じますか？」）という幸福実感指標は、健康であるかどうかの実感を主観的に尋ね、それを数値化した指標、つまり主観指標である。

（ⅱ）関連指標

荒川区民総幸福度（GAH）指標では幸福実感指標のほかに、幸福実感指標に関連する様々な主観指標及び客観指標を含む関連指標を設定している。関連指標は、幸福実感指標で把握した区民の幸福実感上の課題をさらに詳細に把握するために活用されるものである。

例えば、居住している地域で犯罪について不安を感じるかどうかを把握する「犯罪への不安」という幸福実感指標の関連指標としては、「犯罪認知件数」や「自転車盗難件数」などといった客観指標、「不安を感じる暗がりがあると感じる人の割合」などといった主観指標があると考えられる。

以上のような観点から設定した荒川区民総幸福度（GAH）の幸福実感指標とその質問文の案及び関連指標（例示）をⅡで示す。

Ⅱ 荒川区民総幸福度（GAH）指標案

各指標案の最上位に位置する指標として、区民の幸福実感を総合的に尋ねる「幸福実感度」がある。

幸福実感指標案	
指標案	質問文案
幸福実感度	あなたは幸せだと感じますか？

1 健康・福祉指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）
指標案		質問文案	
健康・福祉	健康実感度		あなたは、健康であると感じますか？
	体の健康	運動の実施度	あなたは、体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？ ※スポーツ、ランニング、散歩や階段の利用などを含む。
		健康的な食生活の実感度	あなたは、健康的な食生活を送ることができていると思いますか？
		体の休息度	あなたは、体を休めることができていると思いますか？
	心の健康	つながりの実感度	あなたは、家族や友人など人とのつながりがあると感じますか？ ※ここでのつながりとは、話をしたりあいさつをしたりといった関係を含む。
		自分の役割・居場所がある実感度	あなたは、家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があったり、自分の居場所があったりすると感じますか？
		心の安らぎの実感度	あなたは、心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	健康のための環境	医療の充実度	お住まいの地域では、病気やけがをした時の医療が充実していると感じますか？ ※医療の充実とは、病院や薬局などの施設の充実や、医療の質の充実などを指す。
		福祉の充実度	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？ ※福祉の充実とは、高齢者の介護施設や障がい者の生活支援施設といった施設の充実や、福祉サービスの質の充実などを指す。
			○健康寿命 ○早世率 ○要介護出現率 ○転倒率 ○BMI25以上の率 ○メタボリックシンドロームの該当者予備群減少率 ○運動習慣のある人の割合 ●食生活に満足している人の割合 ○野菜を毎日摂る人の割合
			○健康寿命 ○自殺死亡率 ○うつ傾向率 ●地域に頼れる人がいる実感（※文化に関する幸福実感指標案）
			○1万人当たり医療施設数 ○1万人当たり薬局数
			○特別養護老人ホーム待機者数 ●障がい者福祉サービスへの満足度

* 表に挙げた関連指標は、あくまで複数ある関連指標の中から代表的な指標を例示として挙げたものである。関連指標のうち、主観指標（区民の主観的な実感に関する指標）には●印を、客観指標（統計データ等に基づき客観的に把握される指標）には○印をつけた。

2 子育て・教育指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）
指標案		質問文案	
子育て・教育	子どもの成長の実感度		
	望む子育てができている実感度		
	家族関係	親子コミュニケーションの充実度	あなたの家庭では、親子間でコミュニケーションがとれていると感じますか？ ○親子の会話時間
		家族の理解・協力度	あなたの家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？ ※ここでの家族とは、配偶者、自身及び配偶者の親、親類などを含み、同居しているかを問わない。 ●家族内での育児分担度
	「生きる力」	規則正しい生活習慣の習得度	あなたは、自分のお子さんが規則正しい生活習慣を身につけていると感じますか？ ●子どもへのしつけの実施度 ●食を通じた「生きる力」の習得度
		「生きる力」の習得度	あなたは、自分のお子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力など（「生きる力」）を身につけていると感じますか？ ※「生きる力」とは、知力面、道德面、身体面に関して、社会で生活していく上で必要な知識やそれを活用する技術を身につけていることを指す。 ○学力調査結果 ○児童、生徒一人当たり読書冊数 ●子どもに社会性・思いやりがあると感じる親の割合 ○体力測定総合評価 ○外国語の習得度
	子育て・教育環境	子育て・教育環境の満足度	お住まいの地域における子育て・教育関連事業・サービス・施設など（民・官が提供するものを問わず）に満足していますか？ ●学校教育の満足度 ○いじめ認知件数 ●経済支援の子育て・教育への貢献度 ○待機児童数 ●在宅支援事業の子育てへの貢献度 ○オムツ替え・授乳できる場所の数 ●遊び場や体験できる場・機会の充実度 ○子ども施設の整備率 ○子育て応援サイトアクセス件数
		地域の子育てへの理解・協力度	お住まいの地域では、子育て家庭に対して理解し、協力しようとする雰囲気があると感じますか？ ●子育てについて相談・頼れる人がいる実感度

3 産業指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）	
指標案		質問文案		
産業	生活のゆとり			
	仕事	生活の安定	あなたは、生活を送るのに必要な収入を安定的に得ていくことに不安を感じますか？	●望まない非正規雇用の割合 ○失業率 ○再就職までの期間 ●生活の余裕を感じる人の割合
		ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	あなたは、仕事と私生活とのバランスが取れていると感じますか？	○労働時間 ●自由に過ごすことができる時間の有無
		仕事のやりがい	あなたは、仕事にやりがいや充実感を感じていますか？	●自分が活躍する場があると感じる人の割合
		まちの産業		○区内事業者の売上 ○区内事業所数・従業員数 ○新製品・新技術の開発件数
	地域経済	買い物利便性	荒川区内は、買い物が便利だと思いますか？	○営業時間 ●品揃えに対する不満度
		まちの魅力		○あらかわ遊園入場者数 ○バラの市来場者数 ○区施設・イベント来客者数

4 環境指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）	
指標案		質問文案		
環境	生活環境の充実度			
	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設は、バリアフリー化など利用者に配慮されていると思いますか？ ※施設のバリアフリーとは、身体障がい者や高齢者が生活を営む上で支障がないように建物が配慮されていることを指す。	○バリアフリー進捗率 ○商業施設・公共施設のバリアフリー整備状況
		心のバリアフリー	お住まいの地域では、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？	○おせっかいおじさんおばさん運動を知っている人の割合
		交通利便性	お住まいの地域では、交通の便がよいと感じますか？ ※ここでの交通とは、交通機関、自転車、自動車や徒歩での移動などを含む。	○駐輪可能台数 ○最寄り交通機関へのアクセス時間 ●自動車の走行や駐車しやすいと感じる率 ●公共交通が整備されていて地区内や他地区への交通の便がよいと感じる率 ●人が歩く空間が整備されていて歩いて楽しく快適であると感じる率
	快適性	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？	●まちなみに統一感があると感じる区民の割合 ●景観が良好であると感じる区民の割合 ○違反広告物除却件数 ○緑被率
		周辺環境の快適さ	お住まいの地域では、生活する上で不快さを感じますか？ ※ここでの不快さとは、放置自転車、ポイ捨てなどを含む。	○駅周辺の歩きたばこ者の数 ○放置自転車撤去数
	持続可能性	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？	○資源の回収量 ○ごみの排出量 ○リサイクル率 ○エコライフチャレンジファミリー参加世帯数

5 文化指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）	
指標案	質問文案			
文化	余暇の過ごし方や文化とのふれあいによる精神的豊かさ・心のゆとりの実感度			
	余暇活動	あなたは、余暇の過ごし方や文化とのふれあいによって精神的な豊かさ、心のゆとりを感じていますか？		
		あなたは、自分の余暇の過ごし方に満足していますか？	●余暇・文化活動を行うことができる機会 ●自由に過ごすことができる時間の有無 ○文化施設数 ○文化・娯楽関連イベント数	
	生涯学習環境の充実度		○図書館利用者数 ○スポーツひろばの参加者数 ○生涯学習講座開催回数	
	地域文化	地域への愛着度	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？	●地域行事への参加による充実度 ●荒川の文化に関心がある区民の割合 ●区に魅力があると感じる区民の割合 ●荒川区の地域ブランドへの関心度
		地域の人との交流の充実度	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていますか？	●地域行事への参加による充実度 ●地域の人と交流できる機会の充実度 ●地域の憩える場の充実度
		地域に頼れる人がいる実感度	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？	●子育てについて相談・頼れる人がいる実感度 ●災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じる人の割合
		文化的寛容性	お住まいの地域では、文化や言語が異なる人々への思いやりや寛容さがあると感じますか？	●多文化共生への関心度

6 安全・安心指標案

幸福実感指標案			関連指標（例示）	
指標案	質問文案			
安全・安心	安全・安心実感度			
	犯罪	犯罪への不安	お住まいの地域では、犯罪について不安を感じますか？ ※ここでの安全とは、防犯性・防災性などをすべて含む。	○犯罪認知件数 ○自転車盗難件数 ●不安を感じる暗がりがあると感じる人の割合 ○街路灯の数 ○防犯カメラ設置数 ○地域の見守り（防犯パトロール）実施回数
		事故	交通安全性	お住まいの地域では、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	生活安全性		家庭や学校・職場などで、交通事故以外の生活上の事故の危険を感じますか？ ※ここでの生活上の事故とは、手すりがないことによる転倒、柵がないことによる転落、乳幼児の事故などを含む。	○生活事故の110番事案件数 ●生活圏内でヒヤリハットを感じる人の割合
	災害	個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？	○住宅の耐震化率 ○家具の転倒防止をしている人の率 ○備蓄をしている（3日分）人の率 ○訓練参加者数 ○一時避難場所を認知している人の率
		災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？	○町会防災訓練実施率 ○消防団の団員数 ●災害時に頼れる人がいる人の率 ●声掛けできる隣人がいる人の率
		防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？	○不燃領域率 ○地域危険度（ランク） ○老朽住宅率 ○備蓄食糧の充足率 ○避難所の数

Ⅲ 海外自治体等における幸福度指標事例

荒川区民総幸福度（GAH）は文字通り荒川区という地域の指標である。そのため、地域レベルの幸福度の取り組みに関して世界ではどのような現状にあるかを把握することは重要な意味がある。ここでは、荒川区民総幸福度（GAH）の研究を進めるに当たって、海外で取り組まれている地域レベルの幸福度指標の取り組みに焦点を当て紹介し、その特徴をまとめ検討を行った。

ここでは、今後の荒川区民総幸福度（GAH）の研究に向けて、2つの示唆を得ることができた。第1は、幸福度指標に関する研究は、国や国際比較のレベルだけではなく、国際的にも自治体等による地域レベルでの取り組みが広がっていることを確認できたこと、第2は、指標の結果の示し方について様々な方法で行われていることを確認できたことである。

荒川区民総幸福度（GAH）は、既存の指標とは異なる独自性を有する幸福度指標である。その独自性とは、第1にはワーキング・グループやプロジェクト・チームに関わる職員を中心に検討を進めてきたこと、第2には主観的指標（幸福実感指標）を中心に構成されている指標であること、第3には目的を区民の幸福実感の向上に置き、政策・施策・事務事業との連動や運動も含めたシステムを作ることを志向した指標であることが挙げられる。

ここでは、海外における様々な地域レベルの幸福度関連の指標を見てきたが、参考になる点も数多く分かったものの、同時に荒川区民総幸福度（GAH）には海外の指標にはない多くの独自性があることがわかり、海外の幸福度指標との比較を行いながら荒川区で幸福度研究を進める意義を確認できた。

海外の地方自治体等による幸福度に関連する指標の取り組みのまとめ

指標名等	国及び自治体名	分野数	指標数	主な分野	算出と結果の提示	目的
Community Indicators Victoria(CIV)	オーストラリア ビクトリア州	5ドメイン 23分野	93	健康で安全な包括的なコミュニティ 力強く弾力性のある地域経済 持続可能な建造物及び自然環境 文化的豊かさ及び活気に満ちたコミュニティ 民主主義的で熱心なコミュニティ	主観に関する独自調査、既存データを分野ごとに表示 総合化は行っていない	コミュニティにおける幸福度指標のフレームワークを提供し、計画や優先順位の設定のための指標の使用を通して地域コミュニティをサポートするため
The Seattle Area Happiness Initiative (SAHI)	アメリカ合衆国 シアトル	8ドメイン+ 最上位に主観的幸福	主観9 客観19 (2011年シアトル版)	全体的な幸福（※生活に関する感動や満足聞いたもので、すべての複合指標ではない） 精神的幸福 肉体的健康 時間のバランス 社会との接続と活力 教育及び能力の向上 芸術や文化へのアクセス 環境の活力 民主的な自治	主観の調査結果+客観補足データ 単一化は行っていないが、レポートカードやリーダーチャートの形で全体像を簡単にまとめている	政策立案者に情報、気づき、ツール、技術的援助やサービスを提供 個人により深い気づきへの支援、より思慮深い自らの生活の評価への手段を提供
Community Wellbeing Monitor	オンカバリンガ市(オーストラリア、南オーストラリア州)	4決定要素 23項目	44	環境 経済の発展 社会の発展 健康	客観指標 総合化は行っていない	「Community Plan 2028」の不可欠な部分を形成している。コミュニティの幸福は、また、「the South Australian State Strategic Plan 2014」の目標でもある。
Wellbeing Watch Hunter happiness wellbeing index	ハンターバレー(オーストラリア ニューサウスウェールズ州)	10分野 40項目	-	人口動態 雇用 教育 収入及び資産 家族及び社会関係 住宅及び近隣 犯罪及び安全 健康 保険サービス及び医療 幸福の重要な予測(変数)	幸福度に関する6つの質問（5段階で評価）の平均値により算出。分野ごとの傾向をみる。	・主な目的は、ハンター地方において、幸福度とはっきりと結びついた問題を明らかにすること。 ・2つ目の目的はハンター地域の過去との比較や、ニューサウスウェールズ州の他の地域との比較した研究成果によって、住民がどのように暮らしているかを追跡すること。
Minesota Milestones	アメリカ合衆国 ミネソタ州	19目標	70	人々 コミュニティ及び民主主義 経済 環境	客観指標 総合化は行っていない	市民、コミュニティ及び公務員が19の目標に向かって進歩をするための助けとなること。
Oregon Benchmarks (OBMs)	アメリカ合衆国 オレゴン州	3目標 7分野 91指標	91	ゴール1:すべてのオレゴンの人々のための充実した仕事(経済的幸福) ゴール2:結びついた、思いやりのある、安全なコミュニティ(社会的幸福) ゴール3:健康で持続可能性のある環境(環境的幸福)	客観指標 総合化は行っていない	オレゴン州の戦略的目標であるOregon Shines (オレゴンシャインズ)に対する進歩の測定を行う。

Ⅳ 既存の荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民調査の 分析結果及び今後の実施方針

ここでは、荒川区政世論調査等で行われている荒川区民総幸福度（GAH）に関する分析結果と課題を示し、その課題を踏まえながら、今後予定している本格的な荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の実施方針を示した。

1 既存の荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民調査の分析結果と課題

ここでは、荒川区政世論調査における荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査の平成 18 年度から平成 23 年度までの 6 カ年の調査結果を用い、回答者の幸福度がどのような属性と関連があるか、また回答者の幸福度が「暮らし」「安心・安全」「地域とのつながり」「生きがい」の各質問項目の満足度等とどのように関連しているのかを考察した。また、荒川区民総幸福度（GAH）の運動の側面に関わるものとして、地域活動・行事への参加の頻度と回答者の属性の関連を考察するとともに、回答者の居住地域と区の行う事業に対する要望の関連についても考察した。

今後は、荒川区政世論調査等の既存の区民調査を参照しつつも、幸福実感指標案そのものを用いて幸福度を把握していく必要がある。

2 今後の荒川区民総幸福度（GAH）の調査方法

荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査における調査対象については、荒川区に住民登録のある区民のみではなく、昼間区民や外国籍の住民についても調査する必要がある。また、今後、子ども自身の幸福実感についても考慮する必要がある。

標本の抽出方法としては、（i）無作為抽出による方法、（ii）同一人物に継続調査する方法、（iii）具体的ニーズのある人々に集中的に調査する方法などが考えられる。実際には、無作為抽出によって標本抽出を行うアンケート調査を基本として行い、同一人物に継続調査する方法や具体的なニーズのある人々に集中的に調査する方法を部分的に活用することで、相互補完的に調査を実施し、区民の幸福実感を把握していくことが望ましいと考えられる。

調査の実施方法については、幸福実感指標については独自の調査を行い、関連指標については必要に応じて各所管課が独自のアンケート調査等を実施し、詳細な課題把握を試みることが考えられる。

評価方法については、4 段階尺度、5 段階尺度、7 段階尺度などがあるが、それぞれの特徴と課題を踏まえて、適切な尺度を設定する必要がある。

アンケート調査は、定性的な面を把握するには不十分な面もあるため、自由記述欄を設けたり、対面調査を行ったりすることで定性的な側面についても把握を試みる必要がある。

V 荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用方法案

ここでは、荒川区民総幸福度（GAH）指標をいかに政策・施策・事務事業の改善や立案、荒川区民総幸福度（GAH）の運動の上で活用していくかについて、試験的な検討を行った内容を示したい。

なお、以下はあくまで現時点における検討内容を示したものであり、今後、試行錯誤していく中で適宜改善を図っていくこととする。

1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の課題把握・共有、意思決定支援ツールとしての活用

荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用にあたっては、まず、幸福実感指標や関連指標の分析を行い、その結果から区民の幸福実感上の課題や地域において起きている課題を把握し、関係者間で共有することが重要な役割となる。この課題を把握・共有する関係者には、行政だけでなく、区に関係するあらゆる人や団体も含まれる。

そして、その共有された課題を解決するためにどのような政策・施策・事務事業や運動を行うかについての適切な意思決定を行うためには、意思決定を支援する情報が十分に存在することが重要となるが、その情報として荒川区民総幸福度（GAH）指標の分析結果を活用していくことができると考えられる。

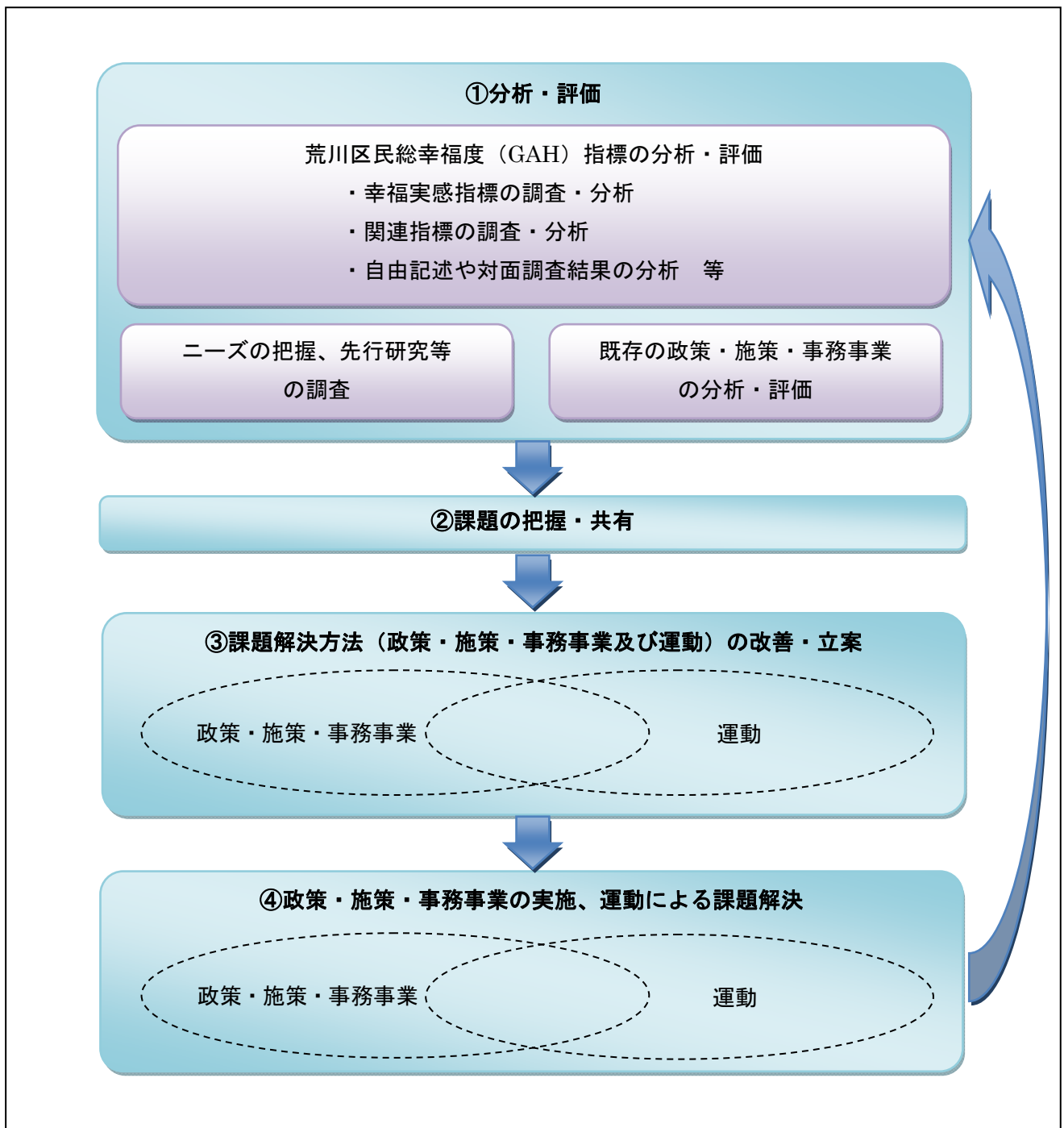
つまり、荒川区民総幸福度（GAH）指標は、区民の不幸や不安の要因、地域における課題などを、区に関係するあらゆる人や団体が把握・共有するツール、また、その課題解決の意思決定を支援する情報を提供するツールとなりうる。このように、荒川区民総幸福度（GAH）指標を「課題把握・共有、意思決定支援ツール」として活用し、政策・施策・事務事業及び運動につなげていくということが、指標の活用に関する基本的な考え方となる。

2 荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用プロセスと分析方法案

ここでは、1で示した基本的な考え方に基づき、荒川区民総幸福度（GAH）指標を政策・施策・事務事業及び運動に活用していくプロセス及び分析方法について試験的な検討を行った内容を示す。

図1は荒川区民総幸福度（GAH）指標の政策・施策・事務事業、運動への活用プロセスを示したものである。以下、それぞれのプロセスの内容について示す。

図1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の政策・施策・事務事業及び運動への活用プロセス



① 分析・評価

まず、区民の幸福実感上の課題や地域における課題を把握するために、荒川区民総幸福度（GAH）指標の分析・評価や地域におけるニーズの把握、先行研究の調査、既存の政策・施策・事務事業の分析・評価などを行う。以下、分析・評価方法として現時点で考えられるものの例をいくつか示したい。

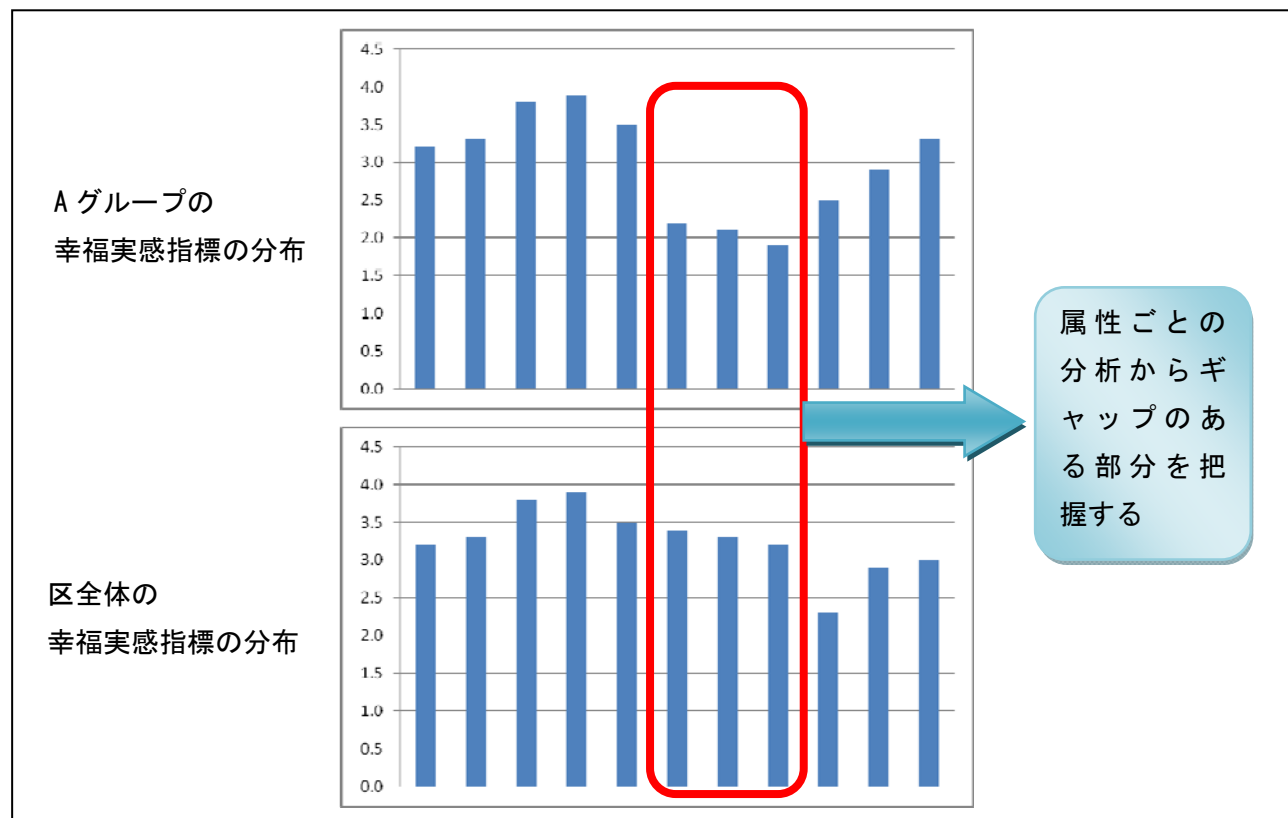
（i）幸福実感指標の調査・分析

区民アンケート調査によって幸福実感指標の数値が明らかになった後、その数値の分析・評価を行うことにより、そこから区民の幸福実感上の課題や地域における課題を把握する。ここでは、主な分析方法の例として5つを示したい。

第1に、幸福実感指標46項目の間の相関を分析する方法である。相関を分析することにより、どのような指標が幸福実感に影響を与えているかを把握することができ、政策・施策・事務事業の改善・立案の際の参考情報にできると考えられる。

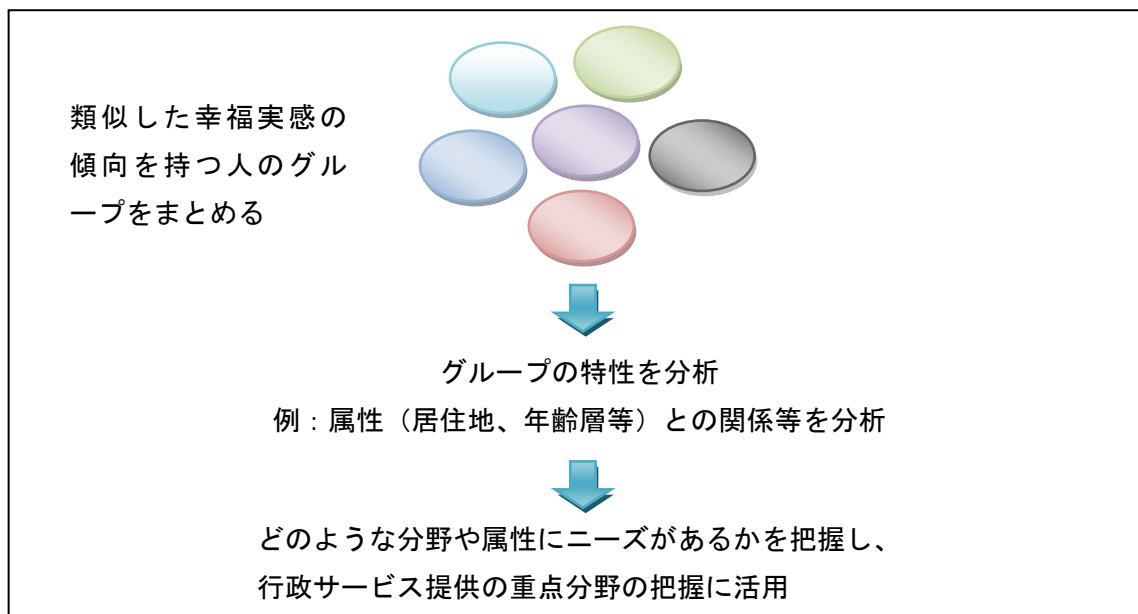
第2に、幸福実感指標を属性ごとに分析することで、課題のある対象や領域を把握する方法も有効と考えられる。この属性ごとの分析方法のイメージを示したものが図2である。例えば、年齢が〇〇代の男性で〇〇地区に住んでいる人のグループは「生活環境の充実度」についてどのように感じる傾向があるのかといったように、同じ属性を持つ人のグループごとに幸福実感指標の分布状況を把握し、区全体の幸福実感指標の分布状況と比較する方法が考えられる。これにより、幸福実感が低い、課題や困難を抱えている人がどのような属性に偏っているのかを把握することができると考えられる。

図2 幸福実感指標を属性ごとに分析する方法のイメージ



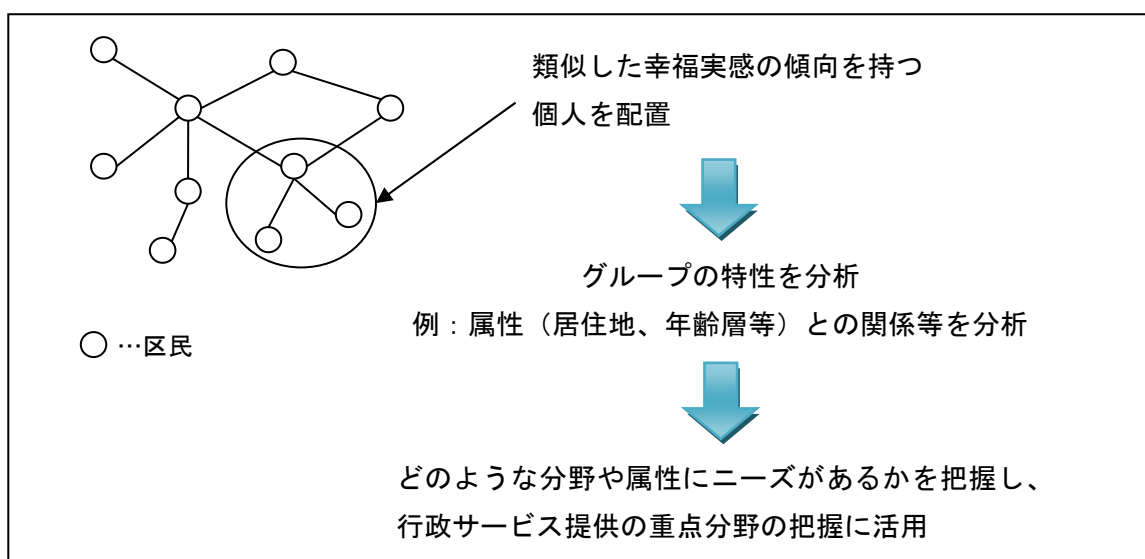
第3に、図3に示したように、幸福実感指標の数値から類似した幸福実感の傾向を持つ区民をグループ化し、そのグループの特性（属性等）を分析することにより、どのような分野や属性にニーズがあるのかを把握し、行政サービスを提供する重点分野の把握に活用する方法も考えられる。例えば、「安全・安心実感度」が低いグループをまとめてその属性を分析し、〇〇地区に「安全・安心実感度」が低い人が偏っていることが分かった場合には、〇〇地区への重点的な対応を検討していくといったことが考えられる。

図3 同じ傾向を持つ人をグループ化してその特性を分析する方法のイメージ



第4に、図4のように、複数の幸福実感指標を組み合わせて類似した傾向を持つ人を抽出し、個人単位で配置し、全体を俯瞰する方法も考えられる。この方法は、図3で示した方法と似ているが、より詳細に幸福実感の傾向を分析しようとする点に特徴がある。この方法でも、図3と同様に、類似した傾向を持つグループの特性（属性等）を分析することにより、どのような分野や属性にニーズがあるかを把握して、行政サービス提供の重点分野の把握に活用できる可能性がある。

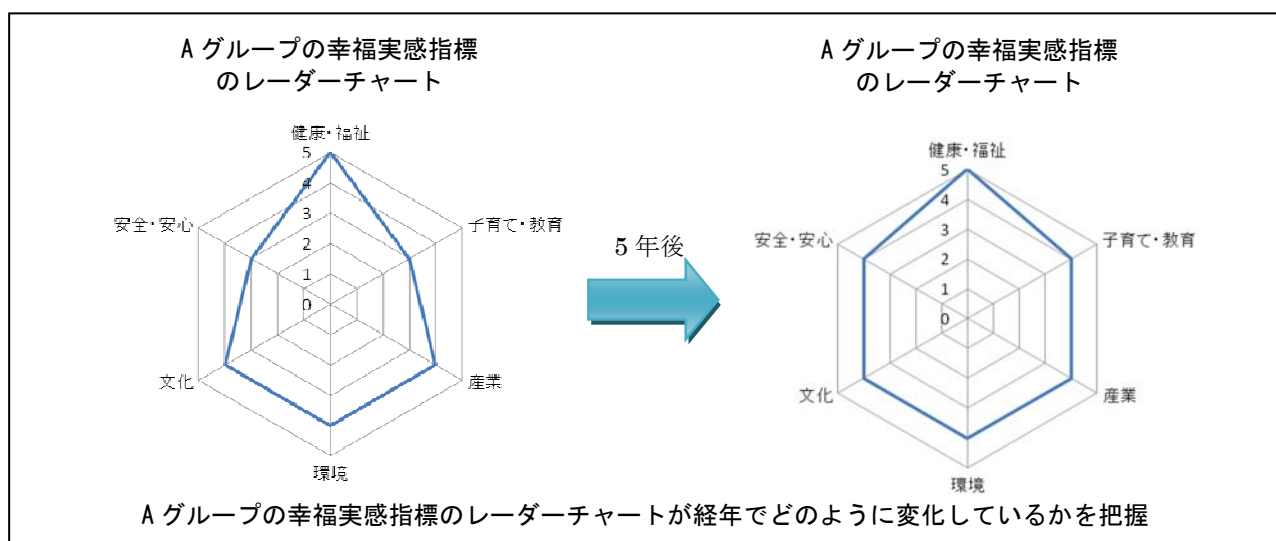
図4 個人単位で配置・俯瞰してグループの特性を分析する方法のイメージ



第5に、同じ属性を持つグループの幸福実感指標に関するレーダーチャートを作成し、経年でどのように変化していくかを見る方法も考えられる。例えば、図5に示したように、Aという属性を持つグループ（例えば、〇〇地区に居住する人のグループ等）の幸福実感指標に関するレーダーチャートを作成し、5年後にどのような変化をしているかを把握するといった方法である。これに、必要に応じて対面調査などを組み合わせて分析することにより、区民の幸福実感がどのような要因で変動していくかを把握できる可能性がある。

また、モニター制度等を設けて、同一人物への継続調査を行うに当たっても、例えば、個人別に幸福実感指標のレーダーチャートを作成し、経年でどのような変化があるのかを調査していくといった活用方法が考えられる。もちろん、数年で個人の幸福実感のレーダーチャートは変わらないかもしれないが、5年、10年という期間で見えていくことには一定の意義があると考えられる。

図5 レーダーチャートを用いて幸福実感指標の経年変化を分析する方法のイメージ



(ii) 関連指標の調査・分析

幸福実感指標の分析で把握した課題のある対象や領域について、関連指標を活用して詳細に調査することにより、どのような部分に課題があるのかをさらに詳細に把握する。または、先に関連指標から課題のある点を把握しておき、その後、幸福実感指標を確認する方法もありうる。

(iii) 自由記述や対面調査結果の分析

荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査では、自由記述欄を設け、択一の回答だけでは表れない区民の幸福実感や地域課題などを把握することを考えている。自由記述の回答結果を分析するに当たっては、テキストマイニングという手法を活用することが有効と考えられる。テキストマイニングでは、自由記述のテキストデータを単語に分割して、その出現頻度や相関関係等を解析することができ、そこから区民の要望や潜在的なニーズ、行政サービスの問題点などを把握できる可能性がある。また、区民に対面調査を実施し、区民の幸福実感や地域課題などをきめ細やかに把握することも有効と考えられる。

(iv) ニーズの把握、先行研究等の調査

幸福実感指標や関連指標の分析だけでなく、既存の調査結果や、必要に応じて実施するアンケート調査、ヒアリング調査の結果などから、どのような部分にニーズがあるのかを把握する。また、課題に関連する先行研究等を調査し、課題についての分析を深める。

(v) 既存の政策・施策・事務事業の分析・評価

明らかとなった課題に対して、区が実施している既存の政策・施策・事務事業がどのような寄与をしているか、不足している部分がないかを把握する。

なお、(i) から (v) で示した分析・評価方法は、同時進行で活用されることもあるし、一部の分析・評価方法だけが活用される場合もある。必要に応じて適切な分析・評価方法を採用し、結果を総合的に勘案して課題を把握することが望ましい。

② 課題の把握・共有

①の分析・評価から得られた結果については、行政内での活用に留めるのではなく、レポート等にまとめた上で、区に関係する人や団体などに広く公開することを考えている。行政を含む地域の人や団体などが、この分析レポートを見て、生活上での実感や地域の実態、日頃の問題意識などを踏まえた上で、区民がどのような部分に不幸や不安の要因を抱えているのか、地域がどのような部分に課題を抱えているのかを把握することで、意識の共有を図る。

③ 課題解決方法（政策・施策・事務事業及び運動）の改善・立案

以上の分析結果に基づき、把握・共有した課題に対する解決方法を検討する。ここで言う課題解決方法には、行政が改善・立案する政策・施策・事務事業もあるし、区民をはじめとする区に関係するあらゆる人や団体を中心となって検討・実施する荒川区民総幸福度（GAH）の運動もある。両者は協力し合い、連携し合いながら一緒に行われることもあるし、別々に行われることもありうる。

既存の課題解決方法に改善すべき点がある場合には、改善の方策について検討する。また、既存の課題解決方法だけでは課題に対応しきれない部分が出てきた場合については、新たな方策を立案する。

必要に応じて、課題解決に向けた行動をしていく上での目標を設定したり、幸福実感指標や関連指標の改善を目指す場合の数値目標を設定したりすることも考えられる。

④ 政策・施策・事務事業の実施及び運動による課題解決

改善もしくは立案した政策・施策・事務事業及び運動を実施する。なお、行政が中心となって実施するものや、行政が政策・施策・事務事業を立案し、地域の人や団体が参画・協力して実施するもの、区に関係する人や団体を中心となって地域の課題を把握し、その解決に向けて協働していくものもある。

政策・施策・事務事業及び運動を実施した後は、再び①のプロセスに戻り、その成果について分析・評価する。

以上のようなプロセスを循環させていくことで、区民の不幸・不安の要因や地域の課題を解決し、区民の幸福実感の向上に寄与し、あたたかい地域社会を築いていくことを目指す。

3 荒川区民総幸福度（GAH）指標の活用イメージ

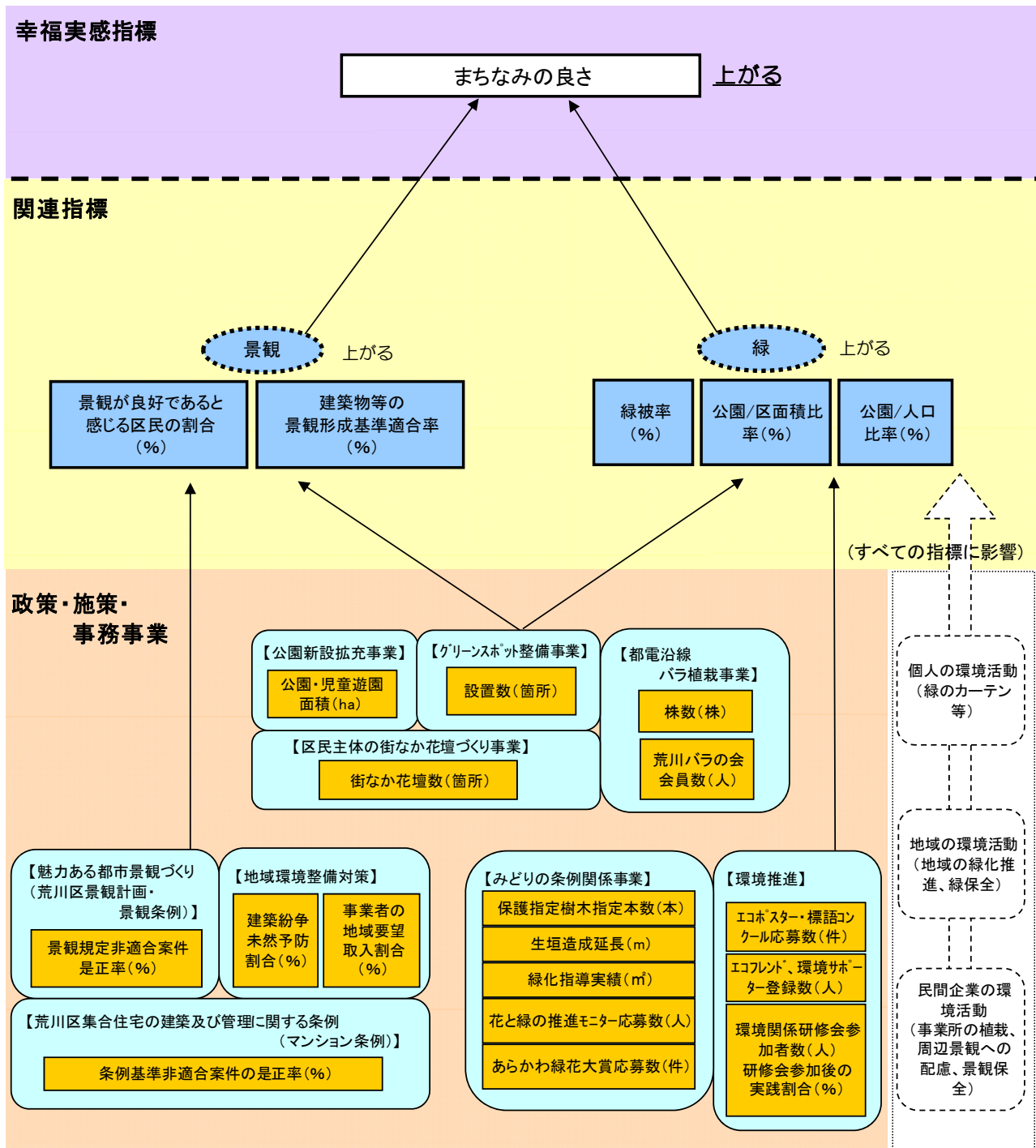
区民の幸福度の向上を目指した政策・施策・事務事業の改善・立案をしていくためには、政策・施策・事務事業の実施が幸福度の向上にどのように結びついていくのか、その関係性を整理することが必要となる。

そこで、ここでは、政策・施策・事務事業の実施が関連指標の向上に寄与し、さらに幸福実感指標の向上に寄与していくといった流れのイメージ化を試みた。イメージ化に当たっては、次のような考え方のもと行った。

- ・ 都市像ごとに比較的關係性の整理がしやすいと思われる幸福実感指標を1つ取り上げ、その関連指標及びそれらの指標の向上に寄与すると思われる政策・施策・事務事業を整理して図に示すとともに、その説明文を記した。
- ・ 次頁の図6は、各指標や政策・施策・事務事業の間の因果関係を示したものではなく、政策・施策・事務事業の実施により期待される成果の流れをイメージ化したものである。
- ・ 区民や企業、NPOといった地域の主体の活動についても一定程度考慮しつつ、行政が実施する政策・施策・事務事業を中心に検討を行った。
- ・ ここでは、わかりやすくイメージ化するため、政策・施策・事務事業の最小単位である事務事業を中心に検討を行った。

ここでは例として環境分野を取り上げ、政策・施策・事務事業の実施が関連指標、幸福実感指標へと結びついていく流れをイメージした図（図6）及びその説明文を示す。

図 6 環境分野における政策・施策・事務事業の実施と幸福度の向上の関係性（イメージ）



(i) 検討の概要

図 6 のとおり、環境指標案の中から「まちなみの良さ」という幸福実感指標を取り上げ、その関連指標を整理するとともに、関連指標に影響すると考えられる政策・施策・事務事業を整理した。

(ii) 考察

ここでは、「まちなみの良さ」に大きく影響すると考えられる「景観」及び「緑」の 2 つの観点から検討を行った。

(a) 景観

「まちなみの良さ」に影響すると考えられるのが景観の良さである。ただ、どのような景観が良いと感じるかは、基本的には個人の主観的なものであることから、景観の良さを測るためには、まず個人の主観を聞く必要があると考えられる。そこで、景観の良さを測定する主観的な指標としては、「景観が良好であると感じる区民の割合 (%)」などが考えられる。

また、客観的に景観が良いかを把握するには、景観を規制・誘導する条例や規則が整備されており、それが遵守されているかどうかは 1 つの基準になると考えられる。区民や建築業者などが家屋やビルなどを建築する際に、それがまちなみと調和したものとなるようにするためには、一定の基準に基づいて誘導・規制していくことが重要であり、この点において、行政が果たすべき役割は大きいと言える。

実際、荒川区では、「荒川区景観計画」及び「荒川区景観条例」が定められており、これらの規程に基づいて良好な景観の確保に向けた取り組みが行われている。また、集合住宅の建築や管理についての基本的なルールを定めた「荒川区集合住宅の建築及び管理に関する条例」の中でも、景観への配慮が規定されている。

ここで定められているルールが遵守されれば、区民の目に映る景観が少しずつでも良くなっていくと考えられることから、客観的な指標としては、景観に関する規定に適合していない案件についてどの程度是正が行われたかを測定する「景観規定非適合案件是正率 (%)」や建築物等が景観形成基準にどの程度適合しているかを測定する「建築物等の景観形成基準適合率 (%)」などが考えられる。

(b) 緑

地域に緑があることは、心の安らぎをもたらすとともに、「まちなみの良さ」にもつながると考えられる。ただ、荒川区のような都心エリアで緑を増やすためには、公園や道路などの公有地の緑を増やすことや、区民の活動や協力により緑を増やすことが必要となる。

緑に関連する指標としては、「緑被率 (%)」「公園／区面積比率 (%)」「公園／人口比率 (%)」などが考えられる。これらの指標の向上を図るためには、公園の拡充を図る事業や、規模の小さい敷地をグリーンスポットとして整備する「グリーンスポット整備事業」などを推進することで緑を増やしていくことが重要である。

また、区民自身が街なかにある花壇の草花の手入れを行う「区民主体の街なか花壇づくり事業」など、区民参加による活動を進めていくことも重要である。

以上、政策・施策・事務事業の実施が関連指標、幸福実感指標へとつながっていく流れのイメージを示した。

これらの検討によって得られた示唆及び今後の課題は次のとおりである。

- ・ 今回示したのは、あくまで、政策・施策・事務事業の実施が関連指標の向上に寄与し、さらに幸福実感指標の向上に寄与していくといった流れの1つのイメージであり、今後、各指標及び政策・施策・事務事業間の関係性についてさらに深く検討をしていく必要がある。
- ・ 幸福実感指標や関連指標の向上は、様々な政策・施策・事務事業を複合的に実施することで初めて可能になると考えられるため、政策・施策・事務事業を検討・実施するに当たっては、組織横断的に進めていくことが重要である。
- ・ 幸福度の向上のためには、個人の取り組みや地域における様々な主体の協力・連携が重要であることから、荒川区民総幸福度（GAH）の運動が果たす役割は非常に大きいと考えられる。そのため、今後、運動と政策・施策・事務事業との連携を深めていく必要がある。

以上、荒川区民総幸福度（GAH）指標の政策・施策・事務事業及び運動への活用方法について示してきたが、これはあくまで現時点での試験的な検討内容であり、今後、荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査を実施し、その分析・評価を行う中で実際にどのような活用ができるか検証していく必要がある。

Ⅵ 荒川区民総幸福度（GAH）の向上を目指した運動

ここでは、荒川区民総幸福度（GAH）の指標化と並ぶ一側面である、運動について述べる。

行政は、あくまで区民の幸せをアシストしていく存在であり、荒川区民をはじめとする荒川区に關係するすべての人や団体が、自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考え、一緒に行動していくことで、はじめて幸福度の向上を成し遂げることができると考えられる。

区民や区に關係するすべての人や団体が、地域ぐるみで荒川区を良くしていこうという運動を起こしていくことができれば、すべての人が幸せを実感できるあたたかい地域社会を構築していくことができると考えられる。そのためにも今後、一層、荒川区民総幸福度（GAH）の向上に向けた運動を推進していくことが重要である。

以下、荒川区民総幸福度（GAH）の向上に寄与していると考えられる活動事例を紹介する。

① 町会・自治会や民生委員・児童委員の活動事例

町会・自治会の活動を中心に、地域における人や団体により地域の活動が多岐にわたって行われている。例えば、高齢者の見守り、子育て、防災といった面で区民や団体が中心となり区と協働した取り組みが行われている。このような活動を行っている主体としては、町会・自治会、民生委員・児童委員、保護司、体育協会、青少年育成地区委員会、消防団、NPO、企業などを挙げることができる。

② 区内飲食店による健康づくりの活動事例

区内の飲食店で健康に配慮した食事が出来るように「あらかわ満点メニュー」が提供されている。区内飲食店、女子栄養大学、区が連携し、各店舗がそれぞれの特色を生かし、美味しくてヘルシーなメニューを開発することで「地域全体で健康づくりをしよう」という取り組みである。

③ 転倒予防体操における高齢者ボランティアの活動事例

「荒川ころばん体操」は、高齢者の転倒予防を目的とし、身体の筋力アップやバランス感覚の向上、歩行能力の改善を図るため、区民、首都大学東京健康福祉学部及び区によって共同開発された区のオリジナルの転倒予防体操である。この体操の普及に当たっては、ボランティアである「荒川ころばん体操リーダー」が中心となって運営を行っており、会場の運営や体操を教えるだけでなく、参加者への声かけなどを通じて、地域づくりにも貢献している。

④ 子どもの見守りにおける高齢者ボランティアの活動事例

子どもの安全・安心を守る取り組みの1つとして、シルバー人材センターでは、小学校や学童クラブの児童の下校の際の付き添いや周囲の見守り、保育園の周辺や出入口の見守りを行っている。これに加え、町会・自治会やNPO法人、母の会、青少年育成地区委員会、学校関係者などのボランティアなども各地域で見守り等の自主的な活動に取り組んでいる。

⑤ 大学、地域、行政による育児における孤立解消に向けた活動事例

「みんなの実家@まちや」は、地域のボランティアサークル「35（産後）サボネット in 荒川」が中心となって、一般の民家を借りて運営されている子育てスペースである。ボランティアの全面的な協力のもとで本当の実家のようにくつろぐことができるため、連日多くの親子連れで賑わっている。

⑥ 区民による育児における孤立解消に向けた活動事例

子育て世代の方から「子どもを連れて和む場所がない」「ベビーカーがあるとファミリーレストランでも着けられない」という声を受け、主任児童委員（当時）が主体となって、集合住宅の管理組合や社会福祉協議会、区からの支援を受けながら実現させたのが、「子育て喫茶汐たま」である。汐入のたまり場として、子育て中の親同士がコーヒーやお茶を飲みながら情報交換や交流をするだけでなく、おもちゃのあるプレイルームが設置されていたり、セラピーや音楽療法、英語劇といった企画も催されている。

⑦ 新たな観光スポットづくりに向けた活動事例

区のシンボルである都電荒川線の沿線には140種13,000株のバラが植栽されている。花の時期には、色とりどりの華やかなバラが咲き誇り、バラを見ようと区外からも多くの人が訪れる。このバラを育成・管理しているのが、ボランティアグループ「荒川バラの会」である。

⑧ 区民による災害時における救出・救護の活動事例

荒川区の町会・自治会には、区民の自主防災組織である「防災区民組織」が結成されている。防災区民組織の中には、災害時に、「おんぶ」をしてでも救出するという「おんぶ作戦」と呼ばれる避難援助体制が整備されている組織もある。災害時に要援護者を安全に避難させるため、地域ごとに避難援助体制を整備し、非常時に備えている。

⑨ 地域活動の担い手となる人材育成に向けて

人とのつながりを大切にしたい地域社会の基盤をつくるためには、地域活動の担い手となる人材の育成が不可欠である。そこで、荒川区は平成22年度に、地域活動を行うために必要な知識や技術を身につける人材育成の場として荒川コミュニティカレッジを開校した。様々な職歴、経歴を生かし、地域社会をより良くしていこうという運動が起きることが期待されている。

このように、荒川区には様々な活動が根付いており、今後もこのような活動が増えていくことで、あたたかい地域社会が実現していくものと考えられる。

VII 今後の検討課題及び検討の進め方

最後に、今後の取り組みに当たっての課題及び検討の進め方を示す。

1 指標に関する課題と検討の進め方

(1) 荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の検討及び実施

今後は、荒川区民総幸福度（GAH）に関する本格的な区民アンケート調査の実施に向け、調査対象、標本抽出方法、質問方法などについて具体的な設計を進めていく必要がある。特に、質問の仕方によっては回答結果が変わることも予想されるため、十分な質問文の精査が必要である。回答方法については、4段階、5段階、7段階などの方法が考えられるが、区民の幸福実感を把握するのに最適な段階を検討し選択する必要がある。さらに、モニター登録を行うなどして一人の人物の幸福度の経年変化を見ていく方法も考えられるが、これをどのように活用することができるか具体的に検討していく必要がある。また、現在は調査の対象外である20歳未満の区民への調査方法などについても検討していく。

(2) 荒川区民総幸福度（GAH）指標の検証

今回、6つの都市像ごとの荒川区民総幸福度（GAH）指標案を示したが、これはあくまでも現時点における案である。今後は、荒川区民総幸福度（GAH）指標案が区民の幸福実感を適切に把握できる指標となっているかどうか、検証が必要となる。検証に当たっては、アンケート調査の結果や自由回答欄のコメント、区民への対面調査なども活用する必要がある。そして、検証した結果として、指標案や質問文に課題があることがわかった場合には、指標の修正を適宜行い、以降のアンケート調査に反映させていくことが必要である。また、時代や社会変動とともに、区民の幸福感も変わっていく可能性がある。こうした点からも、指標の検証と修正を適宜行っていく必要がある。

(3) 指標の総合化の検討

今後、6つの都市像ごとに出した指標案を、個別の指標のまま提示するのか、指標を総合化して数値を算出するのかについて検討していく必要がある。指標の総合化を行う場合、区民の幸福実感により近い数値を算出するためには、全体から見てそれぞれの指標がどのくらいの重みを持っているのかを把握し、重みづけを行うことが望ましい。そのためには、アンケート調査の際に、都市像ごとや個別の指標についての重みを尋ねる質問を設定しておく必要がある。なお、総合化に当たっては、6つの都市像ごとに指標を総合化するのか、すべての指標を1つの指標に総合化するのかについて検討の上、提示する必要がある。

ただし、指標の総合化をすると、算出された数値は大まかな幸福実感を表すものとなるため、詳細な幸福実感を把握することは困難となる。そのため、総合化して数値を算出した場合には、幸福度指標の数値が上昇したからよいと考えるのではなく、数値の中に少数の不幸な人が存在する可能性を見落とさないようにし、そういった不幸な人を減らすということも忘れてはならない。

このようなことから、総合化を行う場合には、区民の幸福度を大まかに把握する指標として算出することとし、一方で、幸福実感指標や関連指標の分析を通じて、詳細な課題把握とその解決に努めていくことが望ましい。

2 指標の政策・施策・事務事業及び運動への活用

(1) 政策・施策・事務事業への活用方法の具体的な検討

アンケート調査を実施した後、その結果に基づいて実際に分析を行い、その政策・施策・事務事業及び運動への活用の可能性について詳細な検証を行う必要がある。その検証結果に基づき、指標の分析方法の改良を行い、必要に応じて今回示した以外の分析方法についても検討していく必要がある。

(2) 荒川区民総幸福度（GAH）の運動の実施

荒川区民総幸福度（GAH）の運動の側面について重要なこととして、第1に、荒川区職員の意識改革、意識高揚がある。区民の幸福度の向上のためには、まず、区民の幸福度の向上を推進していく原動力である職員一人ひとりが、これまで以上に区民を幸せにするシステムの担い手であるという自覚と自負を持つことが重要である。

第2に、荒川区民総幸福度（GAH）をきっかけに、区民が自らの幸福や身近な人の幸福、地域の幸福について考えることがある。周りの人々を思いやり、助け合う気持ちの中で、区民が自らの能力などを活かして行動していくことが、自分自身の幸福感を高めていくことにも寄与し、分かち合いや思いやりにあふれたあたたかい地域社会の実現につながると考えている。

既に荒川区では、荒川区民総幸福度（GAH）の向上に寄与している運動がいくつも存在している。こうした運動が一層増えていくよう、これまで以上に、職員が常日頃から区民の幸福を意識して職務に取り組んでいくとともに、荒川区民をはじめとする荒川区に関わる様々な個人や団体に荒川区民総幸福度（GAH）の意義について理解を深めていただくために、様々な機会を捉えて情報を発信していく。

以上、今後の検討課題及び検討の進め方について述べてきた。今後は、これらに基づき、具体的な検討を進めていきたい。

まとめ

区民の幸福度を尺度として行政サービスを行い、区民の不幸を少しでも減らし、区民が幸福を実感できる地域社会を築いていくことは、真の意味での住民本位の行政を実現することにつながっていくと考えられる。荒川区民総幸福度（GAH）の取組みを通じて、今後も荒川区の誇りである互いに助け合う地域の風土、地域力をさらに高めながら、区民の不幸を減らし、幸福を増やし、荒川区に住むすべての人が幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていきたい。